

2023 年度 研究所活動報告

研究会

「遺族年金を考える」

2023年9月21日、日本女子大学人間社会学部教授の中尾友紀先生をお迎えして、研究会をハイブリッドで開催いたしました。

男女差がある遺族年金は、男女平等の観点から今後、その解消が求められることとなります。今後の遺族年金のあり方について、働く女性という視点で考える機会を提供いただきました。学内の教員や学生に加えて、遠方の大学からも多くの方に参加いただき、活発に質疑応答も行われ、新しい知識や視点を獲得する貴重な機会となりました。

研究会

「女性と政治」

2023年12月15日、シドニー大学准教授の米澤陽子先生とラ・トローブ大学准教授のエマ・ダルトン先生をお迎えして、研究会をハイブリッドで開催いたしました。

米澤先生には「国会における女性政治家の話し方に関する考察」、ダルトン先生には「東京都議会女性議員の「女性」に関する発言の分析」についてご報告いただき、政治と女性のかかわりに新しい視点を獲得する機会となりました。学内の教員や学生に加えて、遠方の大学や海外の大学の方も参加いただき、多くの質疑応答も行われ、盛況のうちに終了いたしました。

研究会

「性暴力と男女不平等社会」

2024年2月22日、日本女子大学名誉教授であり、現代女性キャリア研究所元所長の大沢真知子先生をお迎えして、研究会をハイブリッドで開催いたしました。

「性暴力と男女不平等社会」と題して、性暴力救済センター「日赤なごやなごみ」の設立の経緯ならびにNHK「性暴力被害者調査」（2022）などから、性暴力に関する具体的状況や明らかになった課題を知る貴重な機会となりました。学内の教員や学生に加えて、遠方の大学からも参加いただき、質疑応答後、性暴力と男女不平等社会の構造的問題について活発な討論が行われました。

ワークショップ

「夏のキャリア・スタートアップ・セミナー」

2023年9月19日～20日、清泉女子大学教授の安齋徹先生をお迎えして、日本女子大学の学生向けに『夏のキャリア・スタートアップ・セミナー～アニメ映画とワークショップを通じて、これからのキャリアを考えよう!～』を開催いたしました。

身近なアニメ映画や参加型のワークショップを通じて、これからのキャリア（生き方・

働き方) を考えるきっかけを提供し、今後のキャリア形成に向けて自ら考え、行動する意欲を醸成する機会となりました。安齋先生のお話の合間に学生同士で意見交換をする時間もあり、積極的にコミュニケーションを図る学生の姿が見られました。このようにして「一歩」を踏み出すきっかけとなる2日間は、参加した学生の皆さんにとって貴重な経験となりました。



ワークショップ

「社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ」

2012年から学内の学生・教職員を対象に『社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ』を開催しており、今年度もニッセイ基礎研究所の金明中先生に講師をお願いいたしました。

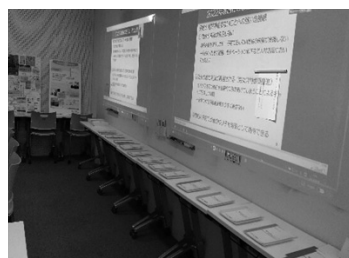
SPSSの基本操作からデータ加工などの基礎知識、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析など、基礎編と応用編に分け、計4日にわたり実践的学習が行われました。参加後のアンケートの満足度も高く、本年度も大変好評なワークショップとなりました。



オープンキャンパス

「研究所の展示紹介」

8月6日、9月3日、オープンキャンパスに現代女性キャリア研究所のブースを開設し、研究所の活動をパネルや動画などを通してご覧いただきました。なかには、研究所発行の『現代女性とキャリア』やニューズレター、リーフレットなどを持ち帰られる親子の姿もありました。オープンキャンパスへの出展は、多くの方々に研究所を知っていただく機会となりました。



2023 年度 彙報

◆研究事業

・独自研究事業の進展

- (1) 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画、女性活躍に関する企業の情報の開示が求められるなか、企業3社の協力のもと働き方の事例調査を進めた。
- (2) 「女性とキャリア」に関わる調査報告書の収集、書誌データベースの拡充を進めた。
- (3) 全労済協会の公募委託調査研究報告書「リカレント教育課程修了者のライフキャリア形成促進政策に関する研究：女性を中心に」（研究代表者：尾中 文哉）が刊行された。
- (4) 特任研究員の米澤陽子氏（シドニー大学）の在外研究を2023年12月に受け入れた。

・2023年度における傘下研究事業は以下のものである。

- (1) WHO 国際ネットワーク参加自治体間における高齢者福祉政策の相互学習の比較研究（増田 幸弘）
- (2) 現代日本における貧困の検証：生活保護制度再考への示唆（岩永 理恵）
- (3) 家族・家計経済研究センター（永井 暁子）

◆教育支援

- ・平塚らいてう賞の選定支援：平塚らいてう賞の事務局業務として応募書類などの確認及び選考委員会の開催などを担当した。
- ・夏のキャリア・スタートアップ・セミナー：学生向けセミナーを9月に2日間開催した。
- ・資料室における図書・雑誌資料等の閲覧提供を行った。

◆情報の発信・ネットワークの構築

- ・研究事業の一環として、以下のシンポジウム、研究会、ワークショップなどを開催した。さらに学外の研究者や研究機関との交流を行った。

(1) シンポジウム

「女性が働く意味を問う」シンポジウム

【講演】「女性が働く意味を問う - 共働き文化の過去・現在・未来？」

木本 喜美子（一橋大学名誉教授）

【パネルディスカッション】

「なぜ女性の就労は〈選択〉の問題とされてきたのか」

杉浦 浩美（埼玉学園大学教授）

「家計と夫婦関係から見た女性が働く意味」

永井 暁子（日本女子大学教授）

「働くことの意味と保護」

上村 泰裕（名古屋大学准教授）

【全体討論】

2023年12月2日（土） 10:00~13:00 新泉山館 オンライン併用

(2) 研究会

「遺族年金を考える」（共催：日本女子大学社会福祉学会定例研究会）

講師：中尾 友紀（日本女子大学人間社会学部教授）

2023年9月21日（木） 18:00~19:30 百二十年館 12010 教室 オンライン併用

「女性と政治」

①「国会における女性政治家の話し方に関する考察」

講師：米澤 陽子（シドニー大学准教授）

②「東京都議会女性議員の「女性」に関する発言の分析」

講師：エマ ダルトン（ラ・トローブ大学准教授）

2023年12月15日（金） 16:00~18:00 百年館 504 会議室 オンライン併用

「性暴力と男女不平等社会」

講師：大沢 真知子（日本女子大学名誉教授）

2024年2月22日（木） 10:30~12:30 香雪館 203 教室 オンライン併用

(3) ワークショップ

夏のキャリア・スタートアップ・セミナー（共催：キャリア支援課）

講師：安齋 徹（清泉女子大学教授）

2023年9月19日（火）~9月20日（水） 10:50~16:50 百年館 603 教室

SPSS ワークショップ

講師：金 明中（ニッセイ基礎研究所上席研究員・亜細亜大学特任准教授）

2024年2月27日（火）~3月1日（金） 14:00~16:30 百年館低層棟コンピューター演習室1

(4) オープンキャンパス展示

オープンキャンパスにRIWACのブースを開設

2023年8月6日（日）、9月3日（日） 10:00~15:00 百二十年館 12002 教室

(5) 共催イベント

「国際女性デーに考える、これからの女性の働き方」

講師：永井 暁子（日本女子大学教授、現代女性キャリア研究所所長）

松田 理恵（株式会社ユキリエ マーケティング本部部長）

2024年3月8日（金）12:00~13:00 オンライン

◆研究所発行物

- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所 機関誌『現代女性とキャリア』第15号
- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所ニューズレター vol.15
- ・『2022年度企業調査事例集』

『現代女性とキャリア』編集規定

(2023.8.7 委員会決定)

1. 本誌は日本女子大学現代女性キャリア研究所の機関誌であって、原則として年1回発行とする。
2. 本誌の編集は編集委員会ならびに編集委員会事務局によって行う。
3. 本誌は原則として、女性とキャリアに関する研究発表の場とする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。本誌では、投稿原稿（論文および研究ノート）、編集委員会による依頼原稿（特集、書評、文献紹介、寄稿論文、その他）等を掲載するものとする。
4. 原稿の作成は、別途定める執筆要項に従うものとする。また投稿は、別途定める投稿規程にもとづいて行うものとする。
5. 投稿原稿の採否は、所定の査読手順に従い、編集委員会において決定する。
6. 編集委員会は、依頼原稿の執筆者を決定して依頼を行い、執筆された原稿の掲載可否を決定する。
7. 書評および文献紹介の対象となりうる図書は、編集委員会が女性とキャリアに関する研究に対して有意義と認めるものとする。
8. 編集委員会は、掲載予定の原稿について、本誌編集方針に則って、漢字・平仮名表記の別など、多少の原稿整理をすることができる。
9. 論文の掲載順序は編集委員会が決定する。
10. 本誌に掲載された論文の著作権はすべて本研究所に帰属し、本研究所ホームページ及び国立情報学研究所（CiNii）、日本女子大学学術情報リポジトリ上で電子化・公開される。
11. 本誌を無断で複製あるいは転載することを禁ずる。

『現代女性とキャリア』投稿規定

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

(2023.8.7 改訂)

1. 投稿は女性とキャリアに関する研究論文及び研究ノートとする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。研究ノートは、論文に準ずるもので、研究上の問題提起、研究プロジェクトの経過報告、他の著書・論文への批判・反論、外国書の紹介・批判などをテーマとする。
2. 投稿資格は問わない。
3. 同一号に複数の論文等（共著を含む）を投稿することはできない。
4. 投稿原稿は投稿規定を満たした未発表のものに限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。また、他誌との二重投稿は認めない。
5. 投稿にあたっては、別途定める「執筆要項」に従って原稿を作成し、体裁を整え、編集委員会事務局（riwac-ed ☆ fc.jwu.ac.jp ☆→@）にメール添付により2月末日までに

送付する。期日までに送付されなかった原稿、執筆要項に定められた字数等の制限を超えた原稿は一切受理しない。編集委員会事務局は原稿受付後、1週間以内に受付した旨を連絡するので、連絡が来ない場合は、投稿者は自身の責任において編集委員会事務局に確認する。

6. 投稿の際には、必要事項を記入した「投稿申込書」を必ず添付する。

<投稿申込書記載項目>

① 氏名（ふりがな）、ローマ字表記、② 住所・電話番号、③ 所属・職名、④ 論文のタイトル、⑤ 投稿の種別（論文／研究ノート）、⑥ 電子メールアドレス

7. 掲載を認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿をメールに添付し、指定した期日までに提出する。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。

8. 投稿論文の査読は、著者名等を匿名に行っている。文献等の表記の際には、匿名にすべき箇所が最小限ですむよう、本人の著であっても、「筆者」「拙著」等とせず、著者名で表記する。

9. 本規程の変更は、編集委員会の議を経ることを要する。

『現代女性とキャリア』執筆要項

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

(2023.8.7 改訂)

1. 執筆の形式

(1) 原稿は、A4判縦置き・横書き、40字×40行で作成し、フォントは10.5MS明朝（章・節・項はゴシック）、MS Word形式およびPDF形式のファイル両方をメール添付にて提出する。（縦書きを希望する場合は要相談）。

(2) 論文及び研究ノートは、1) タイトル、2) 英文タイトル、3) 氏名、下にローマ字表記、4) 英文要旨（200語程度）、5) 英語キーワード3つ（日本語訳付）、6) 本文、図表等、7) 文末注、8) 文献、9) 所属、の順に構成し、総ページ数を論文は12ページ以内、研究ノートは10ページ以内とする。

2. 本文

(1) 本文中の見出しは以下の順でランクを統一する。

1. } 数字：全角
 (1) } 1)
 1) }

(2) 年号は西暦表記を基本とする。

ただし、必要に応じて「昭和50年代」などの和暦表記を用いる。

(3) アラビア数字やアルファベットは半角にする。

(4) () 「」 『』 等のかっこは全角にする。

(5) 句点と句読点は「、」「。」を用いることとする（英文要旨には「,」「.」を用いる）。

3. 図表等

(1) 図・表等を挿入する場合、原稿の該当箇所に挿入もしくは添付する。

(2) 他の著作物からの引用は、出典を明記し、必要に応じて著作権保持者から許可を得る。

(3) 図・表は、それぞれに通し番号をつけ、タイトルをつける。

例 図1、表1

図-1、表-1

4. 注記、文献

(1) 注記は該当箇所の右肩に通し番号を付し、注は本文末尾に一括する。

(2) 引用・文献は、原則として次の方式によって記載する。

- ① 文献を一括してアルファベット順に並べたリストを作成し、末尾に付す。
- ② 文献注は、原則として文献リストへの参照指示という形で記す。すなわち、本文や注の該当箇所に、(著者名(姓) 西暦発行年「:」 ページ)を記して、文献リストの該当文献の参照を指示する形式をとる。
- ③ 文献記載および配列の方法(形式)は指定しないが、論文の中で統一する。

例・書籍: 著者名, 出版年, 『タイトル-サブタイトル』 出版社名.

・雑誌論文: 著者名, 出版年, 「論文名」『掲載誌名』 巻(号), 掲載ページ.

・編書論文: 論文著者名, 出版年, 「論文名」 編者名『編書タイトル-サブタイトル』 出版社名, 掲載ページ.

・翻訳書: 著者ファミリーネーム, ファーストネーム他, 出版年, タイトル: サブタイトル, 出版社名. (= 出版年, 訳者名『訳書タイトル-サブタイトル』 出版社名)

・欧文書籍: 著者ファミリーネーム, ファーストネーム他, 出版年, タイトル: サブタイトル, 出版社.

・欧文雑誌論文: 著者ファミリーネーム, ファーストネーム他, 出版年, “論文タイトル: サブタイトル”, 掲載誌タイトル: サブタイトル, 巻(号), 掲載ページ.

④ 欧文書籍ならびに欧文雑誌論文の場合は、書名(タイトル: サブタイトル)・雑誌名(掲載誌タイトル: サブタイトル)をイタリック体にする。

⑤ 同一著者が同一年に発行した複数の文献は、発行年を 2009a、2009b のように表記して区別する。

現代女性キャリア研究所 現代女性とキャリア 第16号

2024年9月30日発行

編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所編集委員会

編集委員長 永井 暁子

東京都文京区目白台 2-8-1

日本女子大学現代女性キャリア研究所

Tel : 03-5981-3380 Fax : 03-5981-3381

発行 日本女子大学現代女性キャリア研究所

印刷 膳栄社

東京都千代田区神田猿楽町 2-2-12
